

令和4年度第5回狛江市社会教育委員の会議(要旨)

- 1 日 時 令和5年3月27日(月)午後6時から午後7時4分まで
- 2 場 所 狛江市防災センター 401・402 会議室
- 3 出席委員 塚越委員長、伊藤委員、小田嶋委員、梶川委員、中川委員
福田委員、万木委員、鷺見委員
欠席委員 佐藤委員、楠本委員
事務局 鎌谷課長、滝川補佐、千葉主事
- 4 議 題
 - (1) 委員の報告
 - (2) 施設視察研修について
 - (3) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会令和5年度定期総会について
 - (4) 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会について
 - (5) その他
- 5 配布資料
 - 資料1 令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会の開催について
(通知)
 - 資料2 令和5年度定期総会議案書(案)
 - 資料3 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会会議録要旨
- 6 会議の結果
 - 議題(1) 委員の報告
委員長：今年度最後の会議である。まずは、委員の報告から願います。
委 員：2月22日に放課後子供教室運営委員会の会議があった。令和5年度下半期の活動実績について、各放課後子供教室等から報告があった。各事業への参加人数も以前に戻りつつあるようだ。また、コロナやインフルエンザで、どのように対応しているのかなどの報告もあった。私の任期も、今年の3月末までである。
委員長：子どもたちの事業への参加も徐々に戻りつつあるということで、余り焦らずに、恐らく復活していくのだろうと思う。また、その中で、地域参加が増えていくことだろう。

議題（２）施設視察研修について

委員長：参加した皆さんから感想等一言ずつ、話していただきたいと思う。

- ・しっかり活用されていることがすごいと思った。
- ・かなり、進んだ複合施設だと思った。使う人の立場を考えて作られており、こういうところがあったらいいなと思った。新しく、かなり先を行っているが、自治体の中で増えていくといい。
- ・素晴らしいと思いながら、50億。お金があれば、やはり基地があって実現できたのかなと思った。
- ・狛江市では市民センターや図書館が新しくなる。改修案とかに携わってきたが、狛江ではできるのかと、狛江は狛江らしいことを考えながら検討すればよい。
- ・確かに図書館も立派であったが、統廃合というきっかけで地域の人と行政にどんな思いがあったのか、学校跡地をどう活用していくのかというところがもっと知りたかった。
- ・図書館は新しい施設だったが、システムとかは日進月歩で進化しているので10年も経つともう斬新的な図書館ではなくなってしまう。ただ、そこにはずっと残っていく。学校にあった頃に通っていた子どもたちが今後地域の中で成長しても、学校施設だったとわかって活動しているのかというところが、もう少し大事にしていただければよかった気がした。学校跡地の活用を地域の住民に聞かなかった行政のやり方に少し驚いた。地域の学校だったのだから、やはり地域の人たちには、こういう風に使ってほしいとか、こういう施設を作ってほしいとか、なんかもっとそういう思いがあるはずだし、やはり行政が汲み取ってあげることが大事なのかなと思った。ただ、やはりいろいろな施設ができて、直営ではない指定管理者が図書館カフェみたいなサービス、行政ができないサービスが展開されるようになったということは、市サービスの向上につながっていくわけで、それはそれでよいことかなと思った。
- ・狛江も図書館の問題もあれば、旧四小跡地の活用をどうしていくのかという課題が当然ある。校舎や校庭も含めて、市民がどういうものを期待しているのかということ行政に把握していただきたい。皆さんから出たお金の問題。福生、昭島、立川は、国の施設があることで、かなりの補助金から出る。

議題（３）東京都市町村社会教育委員連絡協議会令和5年度定期総会について

事務局：（資料1、2に基づき説明）日時は、4月15日（土）午後1時から、会場は昭島エンス。表彰と講演がある。メールで資料を送付して、出欠を確認したいのでよろしく願います。

委員長：次は調布市が幹事市になる。比較的近隣になるので参加もしやすくなると思う。よろしく願います。

議題（４）令和４年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第２回理事会について
事務局：（資料３に基づき説明） 日時は２月１４日（日）午後３時から４５分程度、委員長と事務局で参加。

委員長：東京大会の繰入金の話があった。毎年３年間ぐらい積み立てて、東京大会を迎えたが、コロナもあって、４０万円程予算が増えたが、その残った予算をどういう形で繰り越していくかっていうことが課題になっている。１０年後ぐらいに、また東京大会が開かれる予定だが、その時に活用できるように別な予算にはしないで、一つの予算の中になるが、本来の補足をとという形で、東京大会のための予算ということで、使わないよう繰り越していこうということで、確認が取れた。

なお、第６５回全国社会教育研究大会が宮崎県宮崎市で１１月８日から１０日の日程で行われる。そして、第５４回関東甲信静社会教育研究大会は栃木県宇都宮市で１１月の２１日から２２日の日程で行われる。

議題（５）その他

委員長：社会教委員の会議、この２年間に任期が終わる。新たに次期の委員の市民公募をしたが応募がなかったそうである。市民委員の方も含めて、引き続き、このメンバーで、よろしく願います。

事務局：校長の宛て職を除いて、メールで委員継続の意向確認をさせていただいた。継続していただけることに感謝したい。

委員長：新年度で、こういった活動をしたい、このような施設を視察したい、こうした提案や提言をしたいとか、何か、そのようなものがあれば、新年度の計画の中に、落とし込んでいきたい。事務局と調整したい。まだ、時間があるので考えておいてほしい。

委員：研修会に行けなかったもので、そういう機会があれば、ぜひ参加したい。また、他市の取組などを知りたい。ワークショップ等、よい取組を取り入れたい。また、会議以外の場で交流ができる機会もあるとよい。

委員長：市によって、活動の強弱がある。以前、吉田コーディネーターから、狛江市は「こんなに真剣にやっているんですね」と話をいただいたが、真剣ということは、それぞれ皆さんが、どういう立場で、どういう意識を持って参加しているかによって変わってくるのかなと思う。

委員：視察研修とか、社会教育について、社会教育委員として学んだことを社会教育委員の中で留めるのではなく、何か私たちで企画して、市民の皆さんに還元できる機会を設けられたらいいのではないかと考えている。

委員長：社会教育とは何か、生涯学習との違いは。私たちも答えられるように学ばないといけない。

委員：自分という役割としては、学校としての情報発信であったり、学校との連携できるようなところで、意見を言わせていただいた。PTAの議論は、10数年されてきているが、社会教育団体の一つであるという捉え方で考えると、学校とは、そういう意味では、社会教育活動にデビューする場として考えられる。ここに参加してみて、意外と重要であったみたいなところを今後考えていきたい。

委員長：学校と社会教育と密接な連携、地域との関わりは非常に大事なことである。それは、子どもたちの成長にも非常に影響するということである。

委員：皆さんの話を聞くのが精一杯で、社会教育委員の会議は何をしているか、聞かれてすぐに答えられなかった。今、色々、まちづくりとか、地域がその方向に動いているが、行政側もすごい。そこに学びの場があるところが、私は社会教育かなと思っていて、何かこう、振り返って、それ社会教育だよ、そういうことができたらいいなと思っている。

委員長：コロナの影響もあって、社会教育的な活動が随分縮小されてしまった。それこそ地域のお祭りであるとか、郷土芸能や社会教育とかも、すごく力を発揮する場面が少なくなったのは残念だなと思う。コロナの3年間、何も取り組んでいないと、どのように事業をやってきたのか、わからない人たちが増えて、これを改めて、再びどのように繋げていくのか、その努力が大変である。私たちを含めて、そういった活動をフォローすることができたらいいが・・・

委員：社会教育団体として登録する時に、団体が社会教育団体であるといえれば登録できる。2年後に同じ状況を作らない。社会教育委員が市民に対して閉じているとは決して思わない。現場として、やはりやるしかないのではないかな。

委員長：社会教育団体の管理そのものが難しいが、社会教育活動をしてもらったり、あるいはそういう団体を増やしていくことは、やはり大事な活動の一つだと思う。お願いしなくてはならないことが沢山あると思うが、団体の皆さんが、少しでも社会教育に目を向けてくれて、そのために活動をしていく必要があると考えてくれるとよい。

委員：一つの大きな課題として、単にスルーして終わるわけではなくて、それをどうしたらよいのか考えることが必要かなと思っている。他市との交流で思い出したが、保育、待機児対策があると思うが、あらは都市部の特有の現象で、地方へ行くとそんなことはない、誰かが、コミュニティに子どもを見てくれる人が多いというような話を聞いたので、例えば関東圏だと似たようなものかもしれないが、本当に地方とか、社会教育としてすることが、都市部と違う部分で何か発見とか気づきがある、そこから何か得られるものがあるのではないかと

思った。むしろ視察や交流をするなら、違う環境とか、違う状況のところよいのではないかと思う。昭島エンシスに行かなかったが、昭島らしさって何ということが、個人的に興味があったが、仮に、図書館を色々作ろうとしている中で、それでは狛江らしい図書館とは、どういうものなのかなっていうことも、あの、改めて考えると、何か1つの答えが出てくるかなという風に思った。それから、個人的には、自分の中で、問いを作ることが好きなので、会議に参加して思考の訓練になった。後は、コロナで学んだことも改めて見ていく必要があると思った。

委員長：色々、皆さんの意見を参考に新年度の事業計画を立てさせていただきたい。私達も目標があると、活動がしやすい。何かテーマ、もしあれば、市の方に確認して、逆に提案をしていく。社会教育に関するもので、何か目標あれば、活動も変わってくるのかなと思う。それから、国の資格制度改革の中で、自治体職員ではなく、一般の人でも社会教育の資格が、社会教育士といった専門家の資格が取れるようになった。国も、これから社会教育が大事な時代を迎えているということを意識していると思う。まだ色々勉強しなくてはいけないこともあると思う。新年度もよろしく願います。

事務局：次回の日程は調整して改めて連絡する。

委員長：これで会議を終了とする。